ＬＳ１４地方

受験番号	

2013年度 甲南大学法科大学院入学試験問題

専門論文試験　刑法・刑事訴訟法

（１２０分）

受験についての注意

1．試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはならない。
2．問題は２ページまである。印刷不鮮明，汚損等があれば申し出ること。
3．**解答用紙は刑法と刑事訴訟法各１枚である。解答用紙には裏面もあるので注意すること。**
4．**解答は，該当する科目の解答用紙を使用すること。**解答用紙を誤った場合，その答案は無効となる。
5．答案は、横書きとする。
6．答案は、実線内の番号に従って書き進めること。
7．**答案は，黒ボールペンまたは黒インクの万年筆で記入すること。**これら以外で記入された答案は，無効となる。
8．答案を訂正するときは，訂正部分が数行にわたる場合は斜線で，１行の場合には横線で消して，その次に書き直すこと。
9．下書きには，問題冊子の余白を適宜利用すること。
10．問題冊子は必ず持ち帰ること。

2013年度

ＬＳ１４地方

専門論文試験　刑法

〔問　題〕

以下の事例における、甲及び乙の刑法上の罪責について論じなさい。

甲女は、株式会社A（以下、「A社」という。）の経理事務員として、長年、同社に勤務していた。A社はBが代表取締役を務める従業員30名程度のごく小規模な会社であったが、甲はBからの信頼が厚く、経理全般を任されており、A社代表取締役B名義の普通預金口座(C銀行D支店)の預金通帳、印鑑、キャッシュカードを保管し、暗証番号を預かっていた。甲は、A社の経理担当者として、A社の営業に必要な現金を上記B名義の預金口座から出金し、売上金を同口座に入金するほか、仕入先に対して振込送金をするなどの業務に従事していた。甲が入出金、振込送金などの手続をする際には、事前または事後にBの決裁を仰ぐ必要はなく、甲自身の判断において、これらの業務を行うことが許されていた。

某日、甲は、中学校の同窓会に参加した際、かつて秘かに恋心を抱いていた相手である乙に再会した。乙は、一見真面目そうな青年となっており、女性好みの風貌をしていたが、勤労意欲に乏しく、多額の借金を抱えていたことから、甲がA社の経理を担当していると知るや、返還の意思がないにもかかわらず、これを秘し、「じつは仕事で大事なプロジェクトを任されているが、これを成功させるためには、いますぐ200万円必要なんだ。200万円があればプロジェクトは成功するし、そうすれば、来月中には必ず返すことができるから。」などと申し向けて、200万円を貸してくれるよう甲に依頼した。当初甲はこれを拒否していたが、好意を寄せていた乙の頼みを断りきれず、また、200万円を自己の預貯金で直ちに用意することはできなかったが、何とかして乙を助けてやろうと考え、「わかったわ。会社のお金を貸してあげる。社長さんは私のことを信頼しているから大丈夫よ。でも、来月には必ず返してね。」と言って、これに応じることにした。

こうして甲は、翌日から3日間のうちに、C銀行D支店において、前後4回にわたり合計200万円を、ATM機から前記B名義の普通預金口座のキャッシュカードを用いて乙の普通預金口座に振り込んだ。乙は、これを、自己の借金の返済に充てた。

2013年度

ＬＳ１４地方

専門論文試験　刑事訴訟法

次の項目、用語ないし原理などについて、簡潔に説明せよ（なお、判例を前提にする）。

（1）強制処分法定主義の意義について説明せよ。
（2）通常逮捕の要件について説明せよ。
（3）「冒頭手続」の進行について説明せよ。
（4）有罪の証明に関する「挙証責任」と証明の程度について説明せよ。
（5）自白の証拠能力について説明せよ。